



Cisco Expressway CE1100 アプライアンス

設置ガイド

2015年11月

2017年9月

X8.10

はじめに

はじめに

変更履歴

表 1: 設置ガイドの変更履歴

日付	変更内容	理由
2017 年 9 月	Expressway シリアル コンソールへの接続方法が明記されました。	セキュア インストール ウィザードは KVM コンソールでは表示されません。
2017 年 7 月	大規模システムにおける 10 Gbps NIC 要件は削除されました。	X8.10 に関する内容が更新されました。
2017 年 4 月	新しいハード ディスクと新しい CIMC インターフェイスの詳細を追加しました。	再発行
2016 年 12 月	新しいセキュア インストール ウィザードの指示が反映されました。	X8.9 に関する内容が更新されました。
2016 年 6 月	スタイル シートを更新し、履歴を序文に移動させ、目次を追加しました。	X8.8 に関する内容が更新されました。
2015 年 11 月	初版。	

はじめに

目次

はじめに	2
変更履歴	2
はじめに	5
このマニュアルについて	5
Cisco Expressway アプライアンスについて	5
関連資料	6
トレーニング	6
用語集	6
設置の準備	7
環境および電源仕様	7
ユニットの開梱と設置の準備	7
シリアル番号の確認	7
インストール	8
ラックへのユニットの設置	8
SFP の挿入方法	8
ユニットの接続および電源投入	8
設定 (Configure)	10
Cisco Expressway への接続	10
シリアル ポートを使用した Expressway への直接接続	11
CIMC Serial over LAN を使用した Expressway コンソールへのリモート接続	11
Cisco Expressway の設定	13
Web インターフェイスの使用法	13
コマンドライン インターフェイス (CLI) の使用法	14
その他のシステム設定の変更	14
更新とアップグレードの確認	14
トラブルシューティング	15
LED とコンポーネントの位置	15
正面図	15
背面図	15
LED の状態の定義	16

はじめに

内部リカバリパーティション (IRP) からのリセット	16
SD カードのリセットと仮想ドライブの有効化.....	16
KVM コンソールを使用した IRP の再インストール	17
再インストール後の仮想ドライブの無効化	17
特定の問題	17
大規模展開において、アクティブなオプションが、「150 のトラバーサル コール」または「3750 の登録」しか表示しない.....	17
電力特性評価チェックによるブート アップ時の遅延	18
通告	18
テクニカル サポート	18
アクセシビリティ通知.....	18
シスコの法的情報	19
シスコの商標	20

はじめに

はじめに

このマニュアルについて

この Expressway のガイドは VCS にも適用されるようになりました。VCS 固有の情報は、必要に応じてガイドに記載されています。
(Cisco.com にある古い VCS ガイドは、各ガイドのタイトル ページで指定されている VCS バージョンで引き続き有効です)

本書では、ビデオ ネットワークに CE1100 アプライアンスを設置する方法について説明します。次の情報が掲載されています。

- 設置の準備。
- ハードウェアの設置。
- 初期設定の実行。
- インストールに関するトラブルシューティング。

Cisco Expressway アプライアンスについて

このマニュアルで説明する Cisco Expressway アプライアンスは、UCS C220 M4L をベースとする CE1100 です。このアプライアンスの設置に関する詳細については、[『Cisco UCS C220 Server Installation and Service Guide』](#)を参照してください。

このアプライアンスには、Cisco Expressway ソフトウェアがプリインストールされており、必要に応じてアップグレードできます。

このアプライアンスは Cisco Expressway のバージョン X8.6.1 以降をサポートしています。

表 2: CE1100 アプライアンスのコンポーネント

項目	パート	数量
シャーシ	UCS-C220-M4L	1
プロセッサ	UCS-CPU-E52637D(3.5 GHz/4 コア - ハイパー スレッド)	2
RAM	UCS-MR-1X162RU-A(16 GB)	2
ハード ディスク	UCS-HD2T7KL12G	2
オンボード SAS コントローラ	UCSC-MRAID12G(Cisco 12G SAS モジュラ RAID コントローラ、1 GB キャッシュおよび SuperCap)	1
NIC	N2XX-AIPCI01 (Intel X520 デュアル ポート 10 Gb SFP+ アダプタ)	1
	EXP-10GSFP-SR(10 Gb SR ファイバ SFP)	2
	EXP-1GSFP-T(1 Gb 銅製 SFP)	2
PSU	UCSC-PSU1-770W および電源コード	2
TPM	UCSX-TPM2-001(トラステッド プラットフォーム モジュール)	1
SD カード	UCS-SD-32G-S(UCS サーバ用 32 GB SD カード)	1
その他	UCSC-RAILF-M4(レール キット)	1
	UCSC-HS-C220M4(ヒート シンク)	2
	UCSC-MLOM-BLK(MLOM ブランク パネル)	1
	UCSC-BBLKD-L(3.5 インチ HDD ブランク パネル)	2
	アクセサリ キット	1
	ベゼル	1

次のコンポーネントは現場での交換が可能です。

- ハード ディスク
- PSU(PSUs)
- 1 GB および 10 GB の SFP モジュール

はじめに

注意: 互換性の問題を回避するため、シスコはユニットに付属している SFP のみを使用することを推奨します。指定 SFP ポートである LAN 1 および LAN 2 に挿入する必要があります。SFP をユニットに挿入する際、異なるタイプの SFP を混在させないでください。2 個の 10 GB ファイバ SFP または 2 個の 1 GB 銅製 SFP を挿入します。

Return Material Authorization (RMA) を開始するには、

http://www.cisco.com/web/ordering/cs_info/or3/o32/Return_a_Product/WebReturns/product_Online_web_returns.html を参照してください。

関連資料

- **Expressway の場合:** Cisco Expressway ソフトウェアのメンテナンスおよび操作の方法については、「[Expressway Maintain and Operate Guides](#)」ページの『*Cisco Expressway Administrator Guide*』を参照してください。
- **Expressway の場合:** Cisco Expressway のクラスタの作成およびメンテナンスの方法については、「[Expressway Configuration Guides](#)」ページの『*Cisco Expressway Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide*』を参照してください。
- **VCS の場合:** Cisco Expressway ソフトウェアのメンテナンスおよび操作の方法については、「[VCS Maintain and Operate Guides](#)」ページの『*Cisco TelePresence Video Communication Server Administrator Guide*』を参照してください。
- **VCS の場合:** Cisco Expressway のクラスタの作成およびメンテナンスの方法については、「[VCS Configurations Guides](#)」ページの『*Cisco VCS Cluster Creation and Maintenance Deployment Guide*』を参照してください。

トレーニング

トレーニングはオンラインおよび当社のトレーニング場所で利用できます。当社が提供するすべてのトレーニングの詳細およびトレーニングオフィスの場所については、www.cisco.com/go/telepresencetraining [英語] を参照してください。

用語集

TelePresence 用語の用語集は <https://tp-tools-web01.cisco.com/start/glossary/> で入手できます。

設置の準備

設置の準備

環境および電源仕様

アプライアンス サーバの環境および電源仕様を確認するには、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/spec.html を参照してください。

注: 以前のアプライアンスから移行する場合は、CE1100 はいったん実行すると高効率でも、多くの電力を消費する可能性があることに注意してください。容量が大きく、電源投入時の突入電流が大きくなります。さらに、第一世代のアプライアンスや CE500 とは異なり、2 台の電源装置が搭載されています。詳細については、電源仕様を参照してください。

ユニットの開梱と設置の準備

以下の詳細については、http://www.cisco.com/en/US/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220/install/install.html を参照してください。

- サーバの開梱と点検
CE1100 は 10 GB ファイバ SFP 2 個と銅製 1 GB SFP 2 個が同梱されています。
- 設置に関するガイドライン。
- ラック要件。
- 機器の要件。
- スライド レールの調整範囲。

シリアル番号の確認

Cisco Expressway アプライアンスは 2 個のシリアル番号を表示します。

- UCS のシリアル番号:
 - 形式は FCHxxxxxxxx です。
 - ハードウェアの引き出しタブ、および CIMC Web インターフェイスに表示されます。
- アプリケーション/ソフトウェアのシリアル番号:
 - 形式は 52DNNNNN で、D は CE1100 シリーズ、N は数字です。
 - Cisco Expressway の Web インターフェイスと引き出しタブの下面に表示され、SSH セッションで取得できます。
 - リリース キーとオプション キーを取得する場合に指定する必要があります。

インストール

インストール

ラックへのユニットの設置

ラックへのユニットの設置については、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/install.html を参照してください。

SFP の挿入方法

注意: 互換性の問題を回避するため、付属している SFP のみを使用することを推奨します。指定 SFP ポートである LAN 1 および LAN 2 に挿入する必要があります。

CE1100 ユニットは 2 個の 10 GB ファイバ Small Form-Factor Pluggable (SFP) トランシーバと 2 個の 1 GB 銅製 SFP が付属しています。SFP をユニットに挿入する際、異なるタイプの SFP を混在させないでください。2 個の 10 GB ファイバ SFP または 2 個の 1 GB 銅製 SFP を挿入します。

注意: X8.10 から、大規模システムの拡張性を実現するために 10 Gbps の NIC を必要とする要件が削除されます。1 Gbps の NIC を使用する大規模なシステムの容量を、帯域幅制約の対象とすることが可能になりました。

SFP は速度を自動ネゴシエートしないため、SFP が正しい速度でスイッチに接続されていることを確認してください。

- 銅製 SFP 用の 1 Gb 全二重。
- ファイバ SFP 用の 10 Gb 全二重。

注: 以前の DMZ の実装のように 100 Mb のみをサポートしている環境に CE1100 をインストールする場合は、1 Gb ~ 100 Mb への速度のネゴシエーションを処理するためのスイッチが必要です。

ユニットの接続および電源投入

最初に電源ケーブルをユニットに接続してから、接地されている AC 電源コンセントに接続します。

電源仕様については、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/spec.html を参照してください。

注: Cisco Integrated Management Controller (CIMC) には、電力消費の追跡に使用する電力モニタリング ユーティリティがあります。

電源ボタンは前面パネルの左上隅にあります。

CE1100 アプライアンスを初めて電源に接続する際は、電源ボタンを押す前に、5 分間はスタンバイモードのままにしておきます。この間に、オンボードの CIMC がブートし、セルフテストを準備し、ハードウェア チェックを実行し、電源の特性評価テストの準備ができるようになります。十分な時間を取らないと、次のブートまで電源特性評価テストが延期されます。

ユニットに電源を投入すると、システムがセルフテストを実行した後、ユニットが自動的に再起動します。再起動は予測される動作です。

初期電源特性評価テストのため、最初のブートには 5 分程度かかります。システムのそれ以降のブートにかかる時間は約 2 分です。

電源特性評価テストの実行時に「Performing Platform Characterization ...」というメッセージが表示されます。

以降のブートアップ時に電源特性評価テストを実行するとブート時に遅延が発生するため、これを無効にすることが重要です。この問題を回避するためにこのテストを無効にすることが、特にクラスタ化された環境では重要です。詳細については、「[トラブルシューティング \(15 ページ\)](#)」で『[特定の問題](#)』を参照してください。

インストール

電源ステータスを確認するには、電源ステータス LED を確認します(図 3: Cisco Expressway ユニットの正面図(15 ページ))。

- 消灯: サーバには AC 電力が供給されていません。
- オレンジ: サーバはスタンバイ電源モードです。CIMC と一部のマザーボード機能にだけ電力が供給されています。
- 緑: サーバは主電源モードです。すべてのサーバ コンポーネントに電力が供給されています。

設定

設定

ここでは、Cisco Expressway に接続し、初期設定を行うさまざまな方法について説明します。

Cisco Expressway への接続

Cisco Expressway を使用する前に、IPv4 および/または IPv6 アドレス、サブネット マスク、およびデフォルト ゲートウェイを設定する必要があります。ルートと管理者のパスワードを設定する必要があります。Web UI と SSH アクセスを有効にすることもできます。どのアドレスを使用するかについては、ネットワーク管理者に相談してください。Cisco Expressway には、スタティック IP アドレスを使用する必要があることに注意してください。

まずユニット背面の LAN 1 ポートからネットワークにイーサネット LAN ケーブルを接続する必要があります。

(LAN 1 ポートはユニットの背面パネルのデュアル ポート アダプタの左側のポートです。図 1:ポートを示した背面パネル、10 ページ)を参照してください。

初期設定では、Expressway のシリアル コンソールにアクセスするために、これらのいずれかのメソッドを使用する必要があります。

- **直接接続**: PC を付属のケーブルを使用して Cisco Expressway シリアル ポートに接続します。お使いのコンピュータに DB9 シリアル ポートがない場合、USB to DB9 コンバータ ケーブルを入手することが必要になる場合があります。
- **リモート接続**: Cisco Integrated Management Controller (CIMC) ツールを使用し、Serial over LAN で Expressway コンソールに接続します。

注意: 初期インストールには、KVM または vKVM を使用できません。

これは、X8.9 で導入されたセキュア インストール ウィザードは、KVM コンソールでは表示されないからです。これは VGA 出力ポートにも表示されません。このウィザードは、Expressway のシリアル コンソールでセキュア インストールが完了するまで無制限に待機します。この状況から回復する場合には、下で説明しているようにシリアル コンソールに接続し、コンソールに対して Ctrl + D シーケンスを発行します。セキュア インストール ウィザードを再起動し、その後 Expressway を構成できます。

図 1:ポートを示した背面パネル

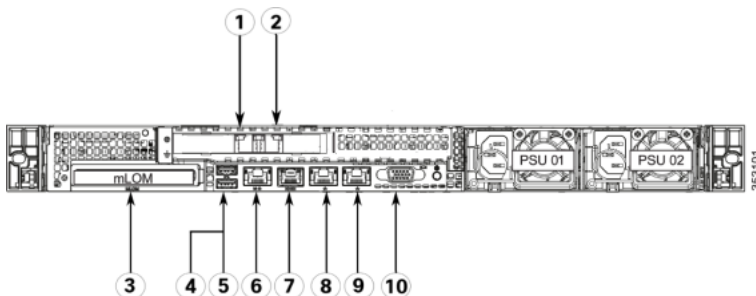


表 3: 背面パネルのポート

1	LAN 1(左 SFP ポート)
2	LAN 2(右 SFP ポート)
3	モジュラ LAN-on-motherboard (MLOM) カード スロット
4	USB 3.0 ポート
5	USB 3.0 ポート
6	CIMC ポート
7	シリアル ポート (RJ-45 コネクタ)
8	LAN 3
9	LAN 4
10	VGA ビデオ ポート (DB-15)

設定

図 2: KVM コネクタを示した前面パネル



表 4: 前面パネルのポート

1 KVM コンソール ポート

シリアル ポートを使用した Expressway への直接接続

- 付属の DB9 to RJ-45 ケーブルを PC (DB9 端) から装置背面のシリアル ポート (RJ-45 端) に接続します。
(ポートには **10101** のマークがあります。「[図 1: ポートを示した背面図 \(10 ページ\)](#)」の番号 7 を参照してください。
互換性を確実にするために、アクセサリ パックに付属の青のシリアル ケーブルを使用します。これはクロスオーバー ケーブルであり、次のピン割り当てがあります。

オス RJ45 のピン	メス DB9 のピン
1	8
2	6
3 TXD	2
4 GND	5
5 GND	5
6 RXD	3
7	4
8	7

注: PC 上に DB9 ポートがない場合には、USB to DB9 (オス) が必要です。

- PC のターミナル エミュレータ プログラム (たとえば PuTTY) を起動し、PC のシリアル ポートを使用するように次のように設定します。
 - ボーレート: 115200 ビット/秒
 - データビット: 8
 - パリティ: なし
 - ストップ ビット: 1
 - フロー制御 (ハードウェアおよびソフトウェア): なし

注: 使用後は、ターミナル エミュレータ セッションを開いたままにしないでください。セッションを開いていると、システムの再起動時に問題が発生する可能性があります。

CIMC Serial over LAN を使用した Expressway コンソールへのリモート接続

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) は、C シリーズ サーバ用の管理インターフェイスです。CIMC はサーバ内で実行し、サーバのリモート管理、設定、およびモニタリングを Web またはセキュア シェル (SSH) コマンドライン アクセスを使用して可能にします。

注: Cisco Integrated Management Controller (CIMC) ツールを使用する場合、追加の IP アドレスが必要です。スタティック IP アドレスを使用することも、DHCP を使用して割り当てることもできます。

設定

CIMC IP アドレスとパスワードの設定(1 回限り):

1. ネットワークを CIMC ポートに接続します(「[図 1:ポートを示した背面パネル\(10 ページ\)](#)」のポート 6)。
2. 付属の KVM アダプタ(三脚ケーブル)を CE1100 全面のコンソール ポートに接続します(「[図 2:KVM コネクタを示した前面パネル\(11 ページ\)](#)」のポート 1)。
注:CIMC を設定するには KVM コンソールのみを使用します。
3. USB キーボードと VGA モニタを KVM アダプタに接続します。
4. モニターで切り替えます。
5. CE1100 アプライアンスで切り替えます。
6. モニターで起動プロセスを監視します。
7. F8 を押して CIMC の設定を開始します。
8. デフォルトの CIMC パスワードを変更して、管理インターフェイスの IP アドレスを設定します。
強力なパスワードを設定する必要があります。
デフォルトの NIC モードは [専用(Dedicated)]、NIC 冗長性設定は [なし(None)] のままにしておくことをお勧めします。
9. 変更を保存するには、F10 キーを押し、Esc キーを押して終了します
(周辺機器とアダプタは切断することができます)。

これで CIMC はその Expressway 上で有効になりました。CIMC の詳細については、「[CIMC コンフィギュレーション ガイド](#)」ページの『*Cisco UCS C-Series Integrated Management Controller Configuration Guides*』を参照してください。

リモート ホストからの CIMC の実行と Serial over LAN の有効化(1 回限り):

次の最小要件を満たすすべてのリモート ホストから CIMC ユーザ インターフェイスを起動し、Expressway を管理できます。

- Java Runtime Environment 1.6 以降。
 - HTTP および HTTPS 対応。
 - Adobe Flash Player 10 以降。
1. Web ブラウザを使用して、設定した CIMC IP アドレスに移動します。
 2. 作成した資格情報を使用してログインします。
 3. 左上隅にあるメニューの矢印をクリックします。
 4. [計算(Compute)] > [リモート管理(Remote Management)] > [Serial over LAN] に移動します。
 5. [Serial over LAN] プロパティで、[有効(Enabled)] にチェックを付けて、[変更の保存(Save Changes)] をクリックします
(Serial over LAN はデフォルトでは無効になっています)。

Expressway コンソールへの接続(必要に応じて随時):

1. SSH を使用して CIMC IP アドレスに接続する端末エミュレータを使用します。
2. デフォルトのユーザ名 admin と CIMC パスワードを入力して、Enter キーを押します。
3. connect host と入力して、Enter キーを押します。
4. これで Serial over LAN を使用して接続していることとなります。
これが Expressway のコンソールへの初めての接続である場合は、インストール ウィザードのプロンプトに従います。

設定

Cisco Expressway の設定

システムが起動した直後である場合、PC のターミナル エミュレータ プログラムは Cisco Expressway のスタートアップ情報を表示します。約 4 分後に、インストール ウィザードが表示されます。システムのサービスはインストール ウィザードを完了した後に再起動します。これは予想される動作です。Cisco Expressway が接続時にすでに有効になっているものの、インストール ウィザードが表示されない場合には、Ctrl + D を押してウィザードを表示します。

(注)

- ウィザードで問題が発生した場合や、間違った情報を入力した場合は、Ctrl + D を押して再起動できます。
 - admin および root アカウントの X8.9 より前のデフォルトのパスワードはよく知られています。これらのアカウントには強力なパスワードを使用する必要があります。新しいシステムが X8.9 以降にある場合は、デフォルト以外のパスワードを指定する必要があります。
 - デフォルトのタイムゾーンは UTC ですが、現地のタイムゾーンを検索することもできます。[システム(System)] > [時間(Time)] に移動して、後で Web インターフェイスから変更することもできます。
 - デフォルト値は、タブ補完をサポートしています。
 - X8.9.1 から、インストール ウィザードには、シリアル番号とリリース キー(使用可能な場合)が参照用に表示されます。
1. インストール ウィザードによって表示されるプロンプトに従い、次を指定します。
 - IPv4、IPv6、または両方を使用するかどうか。
 - Cisco Expressway の LAN 1 IPv4 サブネット マスク(IPv4 を選択した場合)。
 - Cisco Expressway のデフォルト ゲートウェイの IP アドレス。
 - ルート パスワード。
 - 管理者アカウントのパスワード。
 - Web UI を有効にするかどうか。
 - Cisco Expressway の管理に SSH を使用するかどうか。
 - タイムゾーン。
 2. ウィザードが完了すると、次のメッセージが表示されます。
インストール ウィザードが完了しました(Installation wizard complete)
ブートを続行し設定を適用するには Enter を押してください。(Press Enter to continue the boot and apply the configuration.)
Enter を押します。
 3. 設定を適用して再起動すると、Cisco Expressway が使用できる状態になります。Cisco Expressway の Web インターフェイスへは、有効になっていれば、LAN 1 イーサネット ポートに割り当てられた IP アドレスを使用してアクセスできます。

Web インターフェイスの使用方法

(注)

- アドレスは、HTTPS として入力する必要があります。
 - インストール ウィザードで Web UI を有効にすることをお勧めしますが、CLI コマンドを使用してシステムにアクセスすることもできます。
1. ブラウザ ウィンドウを開き、アドレス行に次のいずれかを入力します。
 - Cisco Expressway の IP アドレス(例:https://10.0.0.1)。
 - Cisco Expressway の FQDN(例:https://mydomain.example.com)。[ログイン(Login)] ページが表示されます。

設定

2. [管理者ログイン(Administrator Login)] を選択します。
3. ユーザ名を `admin` とし、システム パスワードを使用してログインします。
[概要(Overview)] ページが表示されます。

Cisco Expressway の Web インターフェイス上の各設定オプションについては、オンライン ヘルプ、または『Cisco Expressway Administrator Guide』を参照してください。

コマンドライン インターフェイス (CLI) の使用方法

コマンドライン インターフェイスは、デフォルトで、SSH とシリアル ポートを介して利用できます。

1. SSH セッションを開始します。
2. Cisco Expressway の IP アドレスまたは FQDN を入力します。
3. ユーザ名を `admin` とし、システム パスワードを使用してログインします。
ウェルカム メッセージが表示されます。

Cisco Expressway で使用できる CLI コマンドの完全なリストについては、『Cisco Expressway Administrator Guide』を参照してください。

その他のシステム設定の変更

次の設定も行う必要があります。

- Cisco Expressway のシステム名。これは、システムを識別するために Cisco TelePresence Management Suite (Cisco TMS) で使用されます。これは、Web インターフェイスの [システム管理(System administration)] ページ([システム(System)] > [管理(Administration)]) から設定できます。
- 自動ディスカバリ。同じネットワーク上に複数の Cisco Expressway がある場合、そのうちのいくつかで自動検出を無効にできます。これは、Web インターフェイスの [H.323] ページ([設定(Configuration)] > [プロトコル(Protocols)] > [H.323]) から設定できます。
- DNS サーバ アドレス (URI ダイアルまたは完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用する場合)。これは、Web インターフェイスの [DNS] ページ([システム(System)] > [DNS]) から設定できます。

これらの設定オプションの詳細については、オンライン ヘルプ、または『Cisco Expressway Administrator Guide』を参照してください。

更新とアップグレードの確認

Cisco Expressway に最新のソフトウェアがインストールされているかどうかを確認するには、<http://software.cisco.com/download/navigator.html> にアクセスし、Cisco Expressway に移動します。

アップグレード方法については、『Cisco Expressway Administrator Guide』を参照してください。

注意: CE1100 はソフトウェア バージョン X8.6.1 以降のみをサポートします。ハードウェアをアップグレードする場合は、サポート対象外のソフトウェア バージョンにダウンロードしないでください。

トラブルシューティング

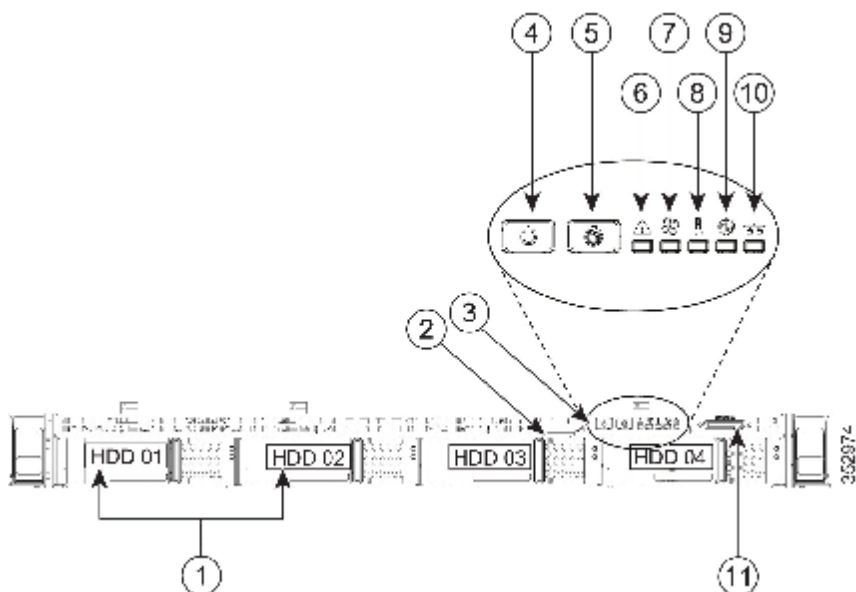
トラブルシューティング

LED とコンポーネントの位置

正面図

次に、ユニットの正面図と使用可能な LED およびコンポーネントのリストを示します。

図 3: Cisco Expressway ユニットの正面図



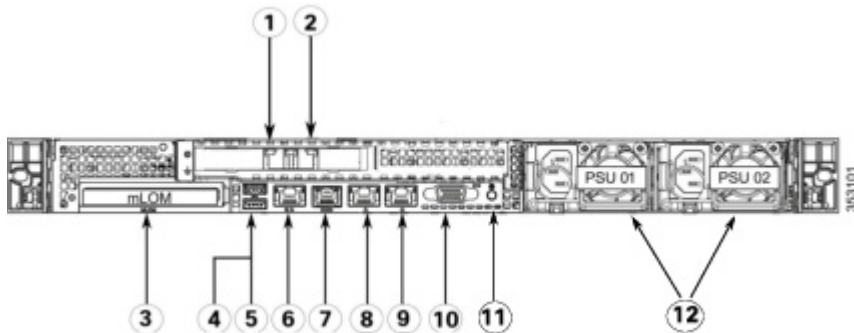
1	HDドライブ アクティビティ/障害 LED
2	ID ボタン/LED
3	操作パネル ボタンと LED
4	電源ボタン/電源ステータス LED
5	ID ボタン/LED
6	システム ステータス LED
7	ファン ステータス LED
8	温度ステータス LED
9	電源装置ステータス LED
10	ネットワークリンク アクティビティ LED
11	KVM コネクタ(USB/VGA 接続の場合)

背面図

次に、ユニットの背面図と使用可能な LED およびコンポーネントのリストを示します。

トラブルシューティング

図 4: Cisco Expressway ユニットの背面図



1	LAN 1
2	LAN 2
3	モジュラ LAN-On-Motherboard (mLOM) カード スロット
4	USB 3.0 ポート
5	USB 3.0 ポート
6	1 Gb イーサネット専用管理ポート
7	シリアル ポート (RJ-45 コネクタ)
8	LAN 3
9	LAN 4
10	VGA ビデオ コネクタ
11	背面ユニット ID ボタン/LED
12	電源装置 (最大 2 台、1+1 の冗長性)

LED の状態の定義

LED の状態の定義については、

http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/unified_computing/ucs/c/hw/C220M4/install/C220M4/replace.html を参照してください。

内部リカバリパーティション (IRP) からのリセット

Cisco Expressway CE1100 アプライアンスには、設定を再インストールするために使用できる SD カードがプリインストールされています。SD カードをリセットし、仮想ドライブを有効にしてから、Cisco Integrated Management Controller (CIMC) の KVM コンソールを使用して再インストールに進みます。リセットが完了したら、仮想ドライブが無効になっていることをもう一度確認します。

注: 再インストールを開始するように CIMC を設定し、アクセスする必要があります。「[CIMC Serial over LAN を使用した Expressway コンソールへのリモート接続 \(11 ページ\)](#)」を参照してください。

SD カードのリセットと仮想ドライブの有効化

1. CIMC にログインします。
2. 左上隅のメニュー矢印をクリックして、[ストレージ (Storage)] > [Cisco FlexFlash] に移動します。
3. [一般 (General)] タブで、[FlexFlash コントローラの起動/リセット (Activate/Reset FlexFlash Controller)] をクリックし、表示されるポップアップ ウィンドウで [OK] をクリックします。リセットすることによって、FlexFlash コントローラを正常な状態にします。
4. [仮想ドライブ (Virtual Drives)] タブをクリックします。
5. [ハイパーバイザ (Hypervisor)] チェックボックスにチェックを付けます。
6. [仮想ドライブの有効化 (Enable Virtual Drive)] をクリックして、仮想ドライブを有効にするかどうかを確認します。

トラブルシューティング

KVM コンソールを使用した IRP の再インストール

1. CIMC のアイコンを使用して、**KVM コンソール**を起動します。
2. CE1100 に電源を投入し、プロンプトが表示されたら F2 キーを押して Setup と入力します。
3. [ブート オプション(Boot Options)] を選択し、[CiscoVD ハイパーバイザ(CiscoVD Hypervisor)] がオプションの 1 つとして表示されていることを確認します。

注:[CiscoVD ハイパーバイザ(CiscoVD Hypervisor)] が表示されない場合は、[UEI:組み込み EFI シェル(UEI: Built-in EFI Shell)] ブート オプションを選択して [CiscoVD ハイパーバイザ(CiscoVD Hypervisor)] に変更します。

4. 要求されたら、F6 キーを押して [ブート メニュー(Boot Menu)] に移動します。
5. オプションとして、[CiscoVD ハイパーバイザ(CiscoVD Hypervisor)] を選択します。
6. 要求されたら、y と入力し、Enter キーを押して再インストールに進みます。
7. [可能な場合はリリース キーを保持する(keep any release keys if possible)] と尋ねられた場合は、y と入力し、Enter キーを押します。
8. オプション キーを追加するオプションが表示されます。これも Web インターフェイスまたは CLI で後から実行できます。
9. b を入力して Enter キーを押し、リブートします。
10. シリアルを使用して接続し、リセットを完了します。
11. 工場出荷時インストール ウィザードが表示されます。
12. リリース キーが表示されます。Enter キーを押してインストール ウィザードに進み、「Cisco Expressway の設定(13 ページ)」に記載されている手順に従います。

注:SD カードでリリース キーが見つからない場合、Cisco Technical Assistance Center(TAC)に問い合わせでリリース キーを請求し、それを再適用します。

再インストール後の仮想ドライブの無効化

1. リブート時に F2 キーを押し、Setup と入力します。
2. [ブート オプション(Boot Options)] で [CiscoVD ハイパーバイザ(CiscoVD Hypervisor)] を選択して無効にします。
3. F10 を押して、設定を保存し、終了します。
4. システムのリブート時に [仮想ドライブ情報(Virtual Drive Info)] タブに戻ります。[ストレージ(Storage)] の下の CIMC インターフェイスで、[ハイパーバイザ(Hypervisor)] チェックボックスをオフにして無効にします。

特定の問題

大規模展開において、アクティブなオプションが、「150 のトラバーサル コール」または「3750 の登録」しか表示しない

Cisco Expressway の大規模な機能(500 のトラバーサル コールと 5000 の登録)を使用するには、CE1100 ユニットに 10 Gb のネットワーク接続が必要です。

注意:X8.10 から、大規模システムの拡張性を実現するために 10 Gbps の NIC を必要とする要件が削除されます。1 Gbps の NIC を使用する大規模なシステムの容量を、帯域幅制約の対象とすることが可能になりました。

通告

電力特性評価チェックによるブート アップ時の遅延

電源特性評価テストは、CE1100 を接続して電源を投入したときに 1 回のみ実行されます。電源特性評価テストが実行し続けて、ブート時間にラグが発生する場合は、CIMC でこれが無効になっていることを確認します。次の手順を実行します。

1. CIMC にログインします(「[CIMC Serial over LAN を使用した Expressway コンソールへのリモート接続\(11 ページ\)](#)」を参照してください)。
2. [サーバ(Server)] > [電源ポリシー(Power Policies)] > [電力制限の設定(Power Cap Configurations)] に移動します。
3. [ブート時の電源特性(Power Characterization at Boot)] チェックボックスがオフになっていることを確認します。
4. [変更の保存(Save Changes)] をクリックします。

通告

テクニカル サポート

必要な情報がマニュアルで得られなかった場合は、<http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html> の Web サイトを参照してください。このサイトでは、次のことが可能です。

- 最新のソフトウェアを実行していることを確認できます。
- シスコ テクニカル サポート チームから支援が得られます。

問題を報告する前に、次の情報を揃えるようにしてください。

- 製品の識別情報(必要に応じてモデル番号、ファームウェア バージョン、ソフトウェア バージョンなど)
- お客様の連絡先となる電子メール アドレスまたは電話番号。
- 問題の詳しい説明。

販売終了のためサポートされない可能性のある Cisco TelePresence 製品のリストを表示するには、http://www.cisco.com/en/US/products/prod_end_of_life.html にアクセスし、「TelePresence」セクションまで下にスクロールしてください。

アクセシビリティ通知

シスコは、利用しやすい製品およびテクノロジーの設計および提供に取り組んでいます。

Cisco Expressway の Voluntary Product Accessibility Template (VPAT) は、[ここで](#)入手可能です。

http://www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/legal_regulatory/vpats.html#telepresence

アクセシビリティの詳細については、[次を参照](#)してください。

www.cisco.com/web/about/responsibility/accessibility/index.html

シスコの法的情報

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

FCC クラス A 準拠装置に関する記述:この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス A デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、商業環境で装置を使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、この装置のマニュアルに記載された指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。住宅地でこの装置を使用すると、干渉を引き起こす可能性があります。その場合には、ユーザ側の負担で干渉防止措置を講じる必要があります。

FCC クラス B 準拠装置に関する記述:この装置はテスト済みであり、FCC ルール Part 15 に規定された仕様のクラス B デジタル装置の制限に準拠していることが確認済みです。これらの制限は、住宅地で使用したときに、干渉を防止する適切な保護を規定しています。この装置は、無線周波エネルギーを生成、使用、または放射する可能性があり、指示に従って設置および使用しなかった場合、ラジオおよびテレビの受信障害が起こることがあります。ただし、特定の設置条件において干渉が起きないことを保証するものではありません。装置がラジオまたはテレビ受信に干渉する場合には、次の方法で干渉が起きないようにしてください。干渉しているかどうかは、装置の電源のオン/オフによって判断できます。

- 受信アンテナの向きを変えるか、場所を移動します。
- 装置と受信機との距離を離します。
- 受信機と別の回路にあるコンセントに装置を接続します。
- 販売業者またはラジオやテレビに詳しい技術者に連絡します。

シスコでは、この製品の変更または改造を認めていません。変更または改造した場合には、FCC 認定が無効になり、さらに製品を操作する権限を失うこととなります。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved.

Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワークポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハードコピーおよびソフトコピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

シスコの商標

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)